

今日のトピック

年末年始の海外市場動向

ポイント1 為替市場は概ね円安基調 新興国は二極化

- 2017年1月3日の為替市場は概ね円安基調の中、比較的落ち着いた推移となりました。ドル円レートは117円台と2016年末より円安水準となり、ユーロ円レートは変わらずで推移しています。
- 新興国は、資源価格と国内の治安や地政学リスクで二極化する動きとなりました。比較的国内が安定しているロシア・ルーブルやコロンビア・ペソは資源価格の上昇が好感されました。特に北海ブレントは年末に56ドル/バレル台と2015年7月以来の水準に戻りました。資源価格の先行きに対する期待から、豪ドルなども堅調です。一方、テロの発生や治安の悪化が伝えられたトルコやブラジルは下落しました。

主な株式・通貨の変動率
(2017年1月3日の2016年末比、%)



(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 株式市場も堅調 新興国が総じて堅調

- 株式市場も総じて堅調なスタートとなりました。昨年末に見られた流れが続いており、新興国株式市場の上昇が目立ちました。特に、ロシア株式市場は資源価格の回復期待や通貨高を背景に堅調となりました。RTS指数は1月3日に1,189.32と2014年9月以来の高値を更新しました。

今後の展開 トランプ次期米大統領の政策を見極める必要

- 年初の新興国株式市場の堅調さは、原油の減産が順調に進むとの期待に加え、トランプ次期米大統領の政策に対する思惑などから、リスク許容度が高まっていることが背景にあると思われます。新興国へのリスクマネー流入が今後も続くかどうかは、1月20日のトランプ次期米大統領の就任式以降の政策を見極める必要がありそうです。

ここもチェック! 2016年12月29日 2016年の振り返り(為替市場)
2016年12月27日 2017年の米国経済及び株式・債券市場の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。